

Title	製造業の経営トップは品質部門をいかにマネジメントするべきか
Sub Title	
Author	浅野, 俊介(Asano, Shunsuke) 清水, 勝彦(Shimizu, Katsuhiko)
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	2012
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 2012年度経営学 第2721号
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00002012-2721

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

慶應義塾大学大学院経営管理研究科修士課程

学位論文（ 2012 年度）

論文題名

製造業の経営トップは品質部門をいかにマネジメントすべきか

主 査	清水勝彦 教授
副 査	高木晴夫 教授
副 査	大林厚臣 教授
副 査	

2013年2月28日 提出

学籍番号	81130047	氏 名	浅野俊介
------	----------	-----	------

論文要旨

所属ゼミ	清水勝彦研究会	学籍番号	81130047	氏名	浅野俊介
(論文題名)					
製造業の経営トップは品質部門をいかにマネジメントするべきか					
(内容の要旨)					
<p>企業の社会的責任(CSR)が重要視されるようになった昨今、企業はCSRに関するリスクに適切に対応しなければならない。製造業におけるCSRに関するリスクの1つとして製品の品質問題があり、製造業の品質部門はリスク対策部門と言える。製品の品質問題によるリコールやPL法訴訟は、企業の著しい信用低下を招き、時には経営危機の原因になりかねない。品質問題に対応する品質部門は重要であるとして、品質部門を強化する企業は多い。</p> <p>著者は、慶應義塾大学大学院経営管理研究科に入学前に自動車メーカーの品質部門に所属していた。研究開発や生産などのライン部門から独立した本社部門である品質部門は、重要品質問題の未然防止とワランティ費用の削減のために拡大されていたが、2008年のリーマン・ショック後の不況においてはライン部門への経営資源投入が優先されて縮小された。品質部門の拡大理由は、品質部門の顧客視点による完成車検証が必要で、「品質は品質部門が保証するしかない」であった。これを品質保証体制αとする。一方で縮小理由は、品質はライン部門が責任を持つべきで「品質はライン部門が各領域で保証するべき」であった。これを品質保証体制βとする。相反する二つの品質保証体制のどちらが正しいのか？という疑問が、本研究の直接の動機である。</p> <p>本研究においては、ライン部門を売上のために加速する「アクセル」、リスク対策部門をリスク回避のために減速する「ブレーキ」と捉える。製造業のライン部門(R&D部門、生産部門)とリスク対策部門(品質部門)の関係にフォーカスして、経営トップがリスク対策部門をいかにマネジメントするべきかについて考察する。アプローチとして、所属していた自動車メーカーの品質部門をベンチマークに品質部門関係者(自動車・飲料・口腔ケア用品・ベビー用品・情報システム)にインタビュー調査を実施した。調査結果から事例分析を行い、リスク対策部門の適切なマネジメントについて以下のように考察した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 調査の結果から品質保証体制αとβの適用条件は以下の結論に至った。 <ul style="list-style-type: none"> α : 「品質のダブルチェックが必要」「完成品による品質保証が重要」 β : 「品質において構成品別最適の集合と完成品最適がイコール」 ・ 各々の品質保証体制の陥りやすいワナとして以下を挙げた。(α : 3つ / β : 1つ) <ul style="list-style-type: none"> α : 「ライン部門の品質部門依存やライン部門と品質部門の縄張り争いが生じるワナ」「ライン部門が品質部門で活躍しない非主力人材を提供してしまうワナ」「品質部門がライン部門に対して必要以上にブレーキをかけてしまうワナ」 β : 「ライン部門間の対立による品質監査が機能しなくなるワナ」 ・ 各々の品質保証体制の陥りやすいワナへの対応として以下を提言した。 <ul style="list-style-type: none"> α : 「品質のダブルチェックを仕組化」「品質部門がライン部門と重複しない独自の業務領域を確立」「ライン部門と品質部門間のジョブ・ローテーションを活性化」「品質部門の成果だけでなくプロセスも評価」 β : 「必要な部門間対立を回避しない社内環境づくりとして、他部門の人を知るためのコミュニケーション機会を設定し、他部門の業務領域への関心につなげる」 ・ 品質保証体制はαよりβの方が陥りやすいワナが少ないため、αでしか品質保証できない製品でなければβを選択するべきである。 ・ 経営トップが品質部門を適切にマネジメントするには、品質保証体制の選択だけではなく品質保証体制に合わせた人事評価制度や部門評価制度も設定するべきである。 					